

## 毒キノコによる食中毒防止等について

秋の行楽シーズンを迎え、野生きのこの本格的な発生時期となっています。

近年、毒キノコによる食中毒事例が相次いで発生しており、昨年は、毒キノコが誤って販売される事例も確認されました。きのこ狩りに出かける際には誤って毒キノコを採取しないよう十分に注意してください。

下記のキノコ毒の概要及び関係機関からの情報提供を参考にして、毒キノコによる食中毒等の発生を防ぎましょう。

なお、野生きのこについては、放射性物質の検査の結果、福島県の一部地域において暫定規制値を超えるものが確認されており、厚生労働省及び農林水産省は、消費者及び食品等関係事業者に対して、野生きのこの採取に当たっての注意喚起（摂取制限等）を行っています。

### 1. キノコ毒の概要

日本における自然毒食中毒の内訳としては、発生件数では植物性が約75%、動物性が約25%です。さらに、植物性食中毒の内訳としては、キノコ類を原因食品とするものが約82%と、大部分を占めます。（平成22年）

いわゆるきのこには栄養成分と特殊成分が含まれていて、特殊成分には薬効や毒作用成分があるとされていますので、注意が必要です。

キノコ毒による健康障害としては、急性のものと慢性又は潜行性のものがあります。

また、毒キノコの作用別分類としては、消化器障害型、神経障害型、原形質毒性型があります。健康障害と具体的なきのこの種類との関係は以下のとおりです。

<毒キノコの作用別分類>

作用など		潜伏期間	症状	毒キノコ名
消化器障害型		20分～1時間	症状：吐き気、嘔吐、下痢	ツキヨタケ、クサウラベニタケ、カキシメジ、ドクヤマドリ、ネズミシメジ、ニガクリタケ
神経障害型 (知覚及び神経系症状)	副交感神経刺激型(ムスカリン様)	30分～2時間	瞳孔縮瞳、腹痛、下痢、頻尿	オオキヌハダトマヤタケ、アセタケ
	副交感神経麻痺型(アトロピン様)	20分～3時間	異常な興奮、流涎、散瞳、筋線維性痙攣	テングタケ、ベニテングタケ、ハエトリシメジ
	中枢神経麻痺型(幻覚剤様)	30分～1時間	口渇、幻聴、幻視、めまい、精神錯乱	シビレタケ、ヒカゲシビレタケ、オオワライタケ
	末梢血管運動神経刺激型(肢端紅痛症)	数日～2週間	手足が焼けるような痛み・発赤	ドクササコ
	ジスルフィラム型(アンタビュース様)	飲酒後30分～1時間	顔面・頸部・胸部・手足のflushing現象、心悸亢進、呼吸困難	ホテイシメジ、ヒトヨタケ、スギタケ
原形質毒性型 (致死率が高い)	コレラ様症状、肝臓、腎臓障害型			ドクツルタケ、シロタマゴテングタケ、タマシロオニタケ、テングタケモドキ
	溶血障害、心機能不全型			ニセクロハツ
	毛細血管など循環器障害型			カエンタケ

(注：第7回かび毒・自然毒等専門調査会会合 山浦由郎専門委員作成資料をもとに作成)

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20061127ks1>

○ [食中毒予防のポイント（食品安全委員会）](#)

2. 関係機関からの情報提供

○厚生労働省

- ・ [毒キノコによる食中毒に注意しましょう](#)
- ・ [野生キノコの放射性物質検査等について](#)
- ・ [福島県の一部地域で採取された野生のキノコ類に係る摂取制限及び出荷制限の設定について](#)
- ・ [福島県の一部地域で採取された野生のキノコ類に係る摂取制限及び福島県の一部地域で産出するクリに係る出荷制限の設定について](#)

○林野庁

- ・ [野生きのこを採取される皆様への注意喚起について](#)